

Windows パソコン活用ガイド (6)

-PDF ファイルを読むために-

赤坂 浩一* 石橋 勇人*

1 はじめに

京都大学大型計算機センター(以下、本センター)では、WWW(World Wide Web)による情報提供を1994年春頃より開始しています。

一昨年頃に登場した Microsoft Windows95 が火付け役となり、パーソナルコンピュータ(以下、PC)の普及と共に、インターネットを利用する人の数も飛躍的に増加し、多くの人が手軽にホームページを見ることができるようになってきました。

本センターにおける WWW による情報提供は、開始当初は誰もがホームページを見るための環境を持っていなかったことから、一つの研究テーマとして位置付けられていましたが、1996年1月より本センターの利用者を中心に有用な情報の提供を目的に本格的なサービスとして行っています。

本センターの利用者を対象とした広報物には、「センター・ニュース」「広報」「利用の手引き」などがありますが、このような広報物も本センターのホームページ(<http://www.kudpc.kyoto-u.ac.jp/>)から、参照できるようになっているものもあります。この解説記事が掲載される「広報」は、ホームページから目次の一覧が表示されるだけで、内容を参照できるようになっていません。(一部の解説記事は、PostScript 形式や HTML 形式として用意されているようですが...)そこで、解説記事の一部を PDF(Portable Document Format)の形式のファイルに変換して、内容を参照できるように用意してみました。

今回は、PDF ファイルを読むようにするためのアプリケーションである、Adobe 社の Acrobat Reader の入手方法やインストールと WWW ブラウザを利用して PDF ファイルを読む方法について簡単に紹介します。

2 PDF ファイル

PDF ファイルは、どんなコンピュータ(例えば Windows や Macintosh)を使っていてもオリジナルのドキュメントと同じレイアウトとデザインで読めるようにするための形式を持ったファイルです。

Windows95 のワードプロセッサ(Word97 や 太郎など)で作成したドキュメントは、Macintosh や UNIX を使っている人たちは直接読むことができますが、PDF ファイルに変換しておくことで、コンピュータの種類に関係なくオリジナルのドキュメントと同じように読めるようになります。

また、PDF ファイルは PostScript ファイルなどと比較して、非常に圧縮率が高くファイルの容量が小さくなるので、ネットワーク経由での転送時間も短くなります。

3 Acrobat Reader

Acrobat Reader は、PDF ファイルを読むためのアプリケーションとして、Adobe 社から無料で提供されており、Windows95 や WindowsNT の DOS/V パソコンをはじめ、Macintosh や UNIX などのコンピュータに対応したものが用意されています。

また、WWW ブラウザの Netscape Navigator や Microsoft Internet Explorer のプラグインソフトとして利用できるため、ホームページで提供される PDF ファイルを見ることができます。

ここでは、Windows95 用の Acrobat Reader を例にして話を進めていきます。なお、UNIX 用の Acrobat Reader は、現在、日本語を含む PDF ファイルに対応したものがありませんので、本センターでサービスしている UNIX システムでは、日本語を含む PDF ファイルを読むことはできません。

* あかさか ひろかず, いしばし はやと (京都大学大型計算機センター)

3.1 入手方法

Acrobat Reader の入手方法は、Adobe 社の WWW サーバ <http://www.adobe.co.jp/> から、「製品情報」のページ、「Adobe Acrobat」のページに移動して、「Adobe Acrobat Reader」¹のページからダウンロードすることができます。

現在、Acrobat Reader 3.0J が最新バージョンとしてリリースされており、日本語を含む PDF ファイルにも対応しています。

この他にも、PC 雑誌の付録の CD-ROM から入手することが可能です。

3.2 インストールする前の注意点

Acrobat Reader のホームページにも記載されていますが、必要なシステム構成は、次のようになっています。

- i386 以上の CPU を搭載した PC (i486 または Pentium プロセッサを推奨)
- Microsoft Windows95 日本語版
- 8MB の RAM
- ハードディスク上に 6 MB の空き容量
- Netscape Navigator 2.0 以上または Microsoft Internet Explorer 3.0 以上

また、Microsoft Internet Explorer 4.0 をお使いの方は、IE4.0 用 ActiveX コントロール アップデートファイル (ocxinst.exe) もダウンロードし、Acrobat Reader 3.0J をインストールした後で、このファイルを実行する必要があります。

Microsoft Internet Explorer 4.0 以外をお使いの方は、必要ありません。

3.3 インストール

ダウンロードしたファイル (arldr30aj.zip) は、zip 形式で圧縮されたファイルとなっていますので、前回の解説記事で紹介した解凍ツール (Lhasa) などを使って、適当なフォルダーに展開します。

展開したフォルダーにある、Setup.exe ファイルをマウスでダブルクリックするとインストーラーが起動し、図 1 のウィンドウが開きますので、メッセージに当たってインストールを行います。

¹ トップページにある「Get Acrobat Reader」のイメージをクリックしても移動できます

「次へ」をマウスでクリックし、「使用許諾契約書」に目を通し、同意する場合は「はい」をクリックします。



図 1. 「Acrobat Reader のセットアップ」

図 2 の「インストール先の選択」のウィンドウでは、Acrobat Reader をインストールするディレクトリ (フォルダー) を選択します。

他のディレクトリにインストールする場合は、「参照」をクリックして「ディレクトリの選択」ウィンドウでインストールするディレクトリを選択します。選択したディレクトリが存在しない場合は、作成するかを問い合わせてきますので、「はい」をクリックします。

この例では、次の

C:\Program Files\Acrobat3\Reader
のディレクトリにインストールしました。



図 2. 「インストール先の選択」

「次へ」をクリックするとインストールが始まり、完了すると「セットアップの完了」のウィンドウに切り替わります。

「Readme ファイルを表示する」をチェックして、「終了」をクリックするとメモ帳などで適当な

エディタで、Readme ファイルが表示されますので内容を確認しましょう。

図 3 のウィンドウで、「OK」をクリックすると Acrobat Reader のセットアップが終了します。

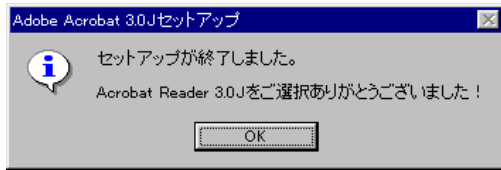


図 3. 「セットアップ終了」

これで、Acrobat Reader のインストールは完了しました。WWW ブラウザとして、Microsoft Internet Explorer 4.0 を使っている方は、続けて IE4.0 用 ActiveX コントロール アップデートファイルをインストールします。

先にダウンロードしたファイル (ocxinst.exe) を実行すると、インストールするかどうかの問い合わせがありますので、「はい」をクリックすると自動的に展開されインストーラーが起動し、図 4 のウィンドウが開きますので、メッセージにしたがってインストールを行います。



図 4. 「IE4.0 用のセットアップ」

「Next >」をマウスでクリックし、「Software License Agreement」に目を通し、同意する場合は「Accept」をクリックします。

次の「Chose Destination Location」では、インストール先のディレクトリを選択します。先にインストールした Acrobat Reader と同じディレクトリにインストールしますので、インストール先を確認して「Next >」をクリックします。

次の「Start Copying Files」のウィンドウで「Next >」をクリックすると、インストールが始まり、完了すると図 5 のように「Setup Complete」のウィンドウに切り替わります。



図 5. 「Setup Complete」

「Finish」をクリックすると、Readme ファイルが表示されます。「Adobe Acrobat Control for ActiveX Setup」のウィンドウで、「OK」をクリックするとインストールが完了します。

念のため、ここで一旦、Windows95 を終了して PC を再起動しておきましょう。

4 ブラウザから PDF ファイルを読む

それでは、実際に WWW ブラウザを利用して PDF ファイルを表示してみましょう。

この例では、Microsoft Internet Explorer 4.0 を WWW ブラウザとして利用していますが、Netscape Navigator でも基本的な操作に違いはありません。



図 6. 「本センターのホームページ」

WWW ブラウザを起動して、図 6のように本センターのホームページを参照します。「センターのサービス」「広報」「目次一覧」とリンクを辿って、広報の目次一覧のページを参照します。

Vol.30 No.6 の目次の中の、「Windows パソコン活用ガイド-IMAP4での電子メールの使い方-」は、PDF ファイルが用意してありますので、マウスでクリックすると図 7のように、自動的にブラウザのプラグインソフトとして Acrobat Reader が起動してPDF ファイルを表示します。



図 7. 「ブラウザからの PDF ファイルの表示」

この解説記事の PDF ファイルは、PostScript ファイルを変換して作成したので、図がとても見にくくなってしまいました。もう少し、見やすいものを改めて作成したいと考えていますので、今回はご容赦ください。

Acrobat Reader の詳しい使い方は、PDF ファイルが用意されていますので、Acrobat Reader で見るすることができます。タスクバーの「スター

ト」をクリックしてメニューから、「プログラム」「Adobe Acrobat」「Acrobat Reader 3.0J」をクリックして起動して、メニューバーの「ヘルプ」をクリックしてメニューから「Reader オンラインガイド」を選択して参照することができます。

5 おわりに

以上、PDF ファイルを読むためのアプリケーション Acrobat Reader について、簡単に紹介しました。

現時点では、本センターで提供できる PDF ファイルの数も少なく、PDF ファイルの持つ様々な機能を活かしたものの用意できていませんが、今後、少しずつでも充実させていきたいと思っています。

また、今回紹介した Adobe 社の Acrobat Reader 3.0J は、無料で提供されているものですが、PDF ファイルを作成するためのアプリケーションとして、Adobe Acrobat 3.0J という製品が Adobe 社から販売されています。

Windows 版も用意されており、今回は、このアプリケーションを使って、PostScript ファイルを PDF ファイルに変換しましたが、まだ十分に使いこなすまでに至っていませんので、今後、もう少し勉強して PDF ファイルでの情報提供を考えていきたいと思っています。

この記事に関して、ご意見・ご質問などございましたら、プログラム相談室までご連絡ください。

